

〒104-0028 東京都中央区八重洲2丁目1-4
東京ミッドタウン八重洲 八重洲セントラルスクエア6階

一般財団法人 日本ふとん協会
TEL. 03-6264-4040

<https://www.futon.or.jp>
FAX. 03-6263-2660

日本ふとん製造協同組合
TEL. 03-6263-2661

<https://www.japan-futon.or.jp>
FAX. 03-6263-2660

検索

JAPAN
FUTON

JFA

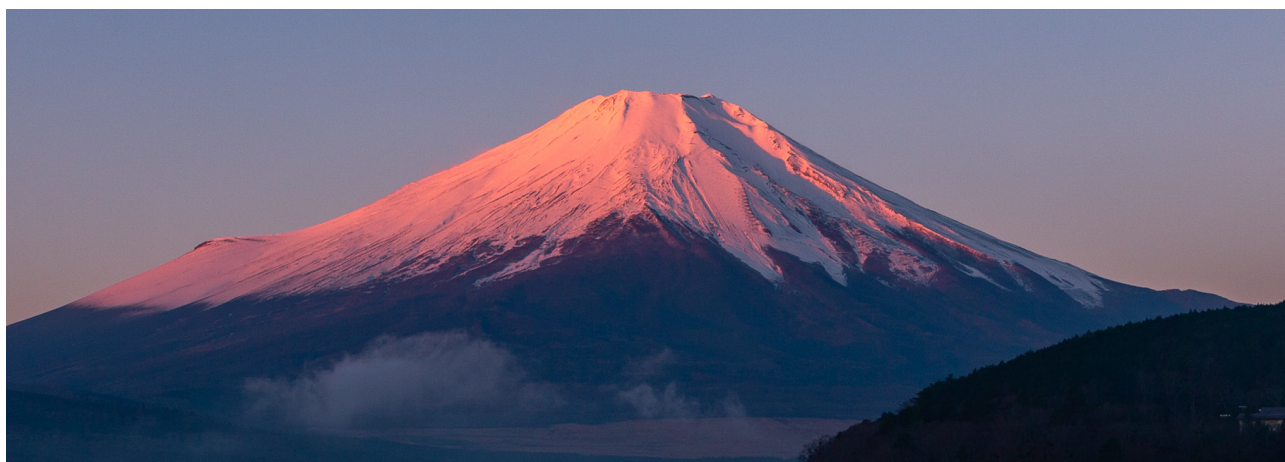
(一財)日本ふとん協会



JFMA

JFMA

日本ふとん製造協同組合



2024年 年頭所感

一般財団法人 日本ふとん協会
理事長 米山 元章

新年あけましておめでとうございます。旧年中は日本ふとん協会の活動にご理解、ご協力を賜り心より御礼申し上げます。

昨年度を振り返ると、経済と社会の状況は様々な課題に直面いたしました。世界的な不確実性、物価の上昇、そして2年余りに及んだ新型コロナウイルスによる影響が、我々の日常を大きく変えました。こうした厳しい状況下で、我々ふとん業界もまた多くの課題に立ち向かわなければなりませんでした。

特に、原材料の価格上昇や暖冬などが、我々の業界に大きな影響を与えています。ただでさえ物価上昇による買い控えの中で、これらの課題に適切に対処しなければ、今後の事業継続が危ぶまれる事態となりかねません。

2024年度において、日本ふとん協会はこれらの課題に慎重に取り組み、業界全体の発展を考えてまいります。そのために、昨年リニューアルした「JAPAN FUTON」ラベルを活用し、日本製ふとんの価値向上を図るべく、ブランディング活動をはじめています。このラベルは、日本製ふとんの優れた品質、技術、伝統を象徴し、国内外での認知度向上に取り組んでいきます。

また、社会問題として取り組むべき課題は、ふとんのゴミ減量化が挙げられます。この課題に真摯に向き合い、リサイクルやリユースの促進を通じて、環境負荷の軽減に貢献できればと考えております。

さらに、会員企業から寄せられる要望にも応えていきたいと考えております。設備のメンテナン



スや拡販開拓について検討いたします。これらの課題解決のために、2つの委員会を立ち上げ、具体的かつ効果的な活動を検討・実施してまいります。

我々を取り巻く環境は確かに厳しいものがありますが、このような時こそ、結束が強まり、新たな可能性が開けると信じています。協力し合い、情報を共有し、アイデアを出し合うことで、より創造的で実現可能な解決策が見つかることでしょう。そして、より良い未来へと繋がる一步を踏み出しましょう。

最後に、2024年が、協会の会員企業の皆様にとって、希望に満ちた充実した一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

ブランディング委員会

委員長 石田 裕紀子

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

この度「日本ふとん製造協同組合（JFMA）」から「日本ふとん協会（JFA）」への団体変更に伴い、時代に即応したブランドとして再構築するために、前身・経営情報委員会の有志によるブランディング委員会を発足しました。



まずは、新JFAロゴマークをアートディレクターの石川竜太氏にリブランディングして頂き、日本ふとん協会のサイトもリニューアルしました。新ブランドのコンセプトなどについてもサイトに詳細が記載されておりますので、是非ご覧ください。

これに伴い、2023年9月より新しい認証ラベルに刷新しました。2009年2月にスタートした「まるごとジャパンラベル」、及び「日本製ラベル」を2019年4月に統合した「JAPAN FUTON」の名称は引継ぎ、一般消費者にも分かりやすいように旧スタンダードラベルと同じ基準に一本化しました。また、より多くの会員様にお使い頂けるよう価格もほぼ原価に抑え、下げ札と縫込みネームの2種類ご用意しました。

新ラベルは、協会が認定した国内工場で製造された安心・安全な「日本製ふとん」であることを証明する認証ラベルです。国産ふとんの存在感を高めるべく、会員の皆様にはラベルを積極的にご活用いただきたく存じます。

今後もJFAブランド認知度向上と、ラベルの普及に向け、協会認証商品のネット通販サイト構築、国内外の展示会の共同出展や、各種プロモーション活動等々について精査しているところです。

新体制のもと、気持ちを新たに一丸となって活動してまいりますので、引き続きご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

価値創造委員会

委員長 西岡 一則

過日、事務局から皆様に日本ふとん協会へのご要望アンケートを実施いたしました。多数ご回答いただき、その中で特にご要望が多かった項目への対応の一環としてこの度、新たな委員会を立ち上げ「価値創造（バリュー・クリエーション）委員会」と名付けました。その名のとおり日本ふとん協会そのものの価値や加盟会社様の価値、ふとんの価値等、様々



な価値を創造できるよう取り組んでまいります。

活動方針は下記のとおりです。

①使用済ふとんの回収リサイクル事業

今やふとんをお持ちでないご家庭はなく、押し入れ等の収納スペースは一杯の状態、買い替えたくても、ふとんを粗大ごみとして処理するのも抵抗がある人も多いと聞きます。このことがふとんの買い替えを躊躇させている一因であることは想像に難くありません。また、SDGsの観点からも資源の有効活用することは社会的責任となっており、もはや避けては通れません。過去に何度となくトライし成就しなかった、ふとんのリサイクルですが、機は熟しつつあります。

まず、アウトプットとなるリサイクル事業者との業務提携や協業を模索して、具体的にどのような取り組みができるか交渉をスタートしました。

インプットとなる使用済みふとんの回収システム構築に向けましても、関係各位のご協力を仰ぎながら進めて参ります。

また、ふとんのリサイクルに適したマークの制定（プラマークのようなもの）も検討して参ります。

②海外販路開拓事業

海外展示会出展の情報収集や海外エージェントとのコンタクトをスタートしました。

③機械設備メーカー様および側縫製業者様とのマッチングサポート事業

我々ふとん生産事業者は、生産設備のメンテナンスに不安を抱えております。また、側の縫製業者が少なくなり、今後の生産に不安を感じております。

我々ふとん生産事業者が困っているのと同様に機械設備メーカー様や縫製事業者様においても需要の減少に苦しんでおられます。このミスマッチを解消したいと考えております。共にWinWinの関係となるよう努力して参ります。

生産設備メーカー様やマシンメーカー様およびメンテナンス業者様をリストアップし、情報共有を進めて参ります。（中古設備やマシン部品等の情報共有も含めて）

あわせて側の縫製業者様をリストアップし、情報共有して参ります。（国内での側の縫製に苦労している現状の解消）

④ふとんの性能評価事業

睡眠学の分野での技術の向上は目を見張るものがあり、現在では睡眠状態を客観的に簡易に測定可能で、AIによる睡眠状態の解析が可能となっております。このシステムを利用して本当に良い睡眠が得られるふとん作りを目指します。

⑤ふとんのマイスター制度事業

ふとんはありとあらゆる場面で販売されており、情報も氾濫し価格や品質もさまざまです。消費者側からすれば、求めている商品を探すのは困難を極めます。

そこで、消費者からのニーズを受け止め、最適な商品をお勧めできる人材育成が急務であると考えます。

あらゆるふとんのプロフェッショナル育成を目指し、ふとんマイスター制度なるものを検討して参ります。

ブランディング委員会とも連携しながら進めていきたいと考えております。

皆様の絶大なるご支援ご協力をお願い申し上げます。

新 JFAブランド – JAPAN FUTON ラベルのご案内

日本ふとん製造協同組合では、2009年2月に「まるごとジャパンラベル」と「日本製ラベル」を発行し、日本製ふとんの差別化を図りました。その後、2019年4月に二つを統合した「JAPAN FUTON」を発行し、さらにステップアップいたしました。

2023年4月より新たな体制になった日本ふとん協会は、これらのブランドを引き継ぐだけでなく、アートディレクターの石川竜太氏にデザインして頂いた、新しいロゴマークを上市いたしました。

ブラッシュアップされた新しい「JAPAN FUTON」ラベルは、一般消費者にも分かりやすいように、従来のスタンダードラベルと同じ基準に一本化しております。また、用途に合わせて下げ札タイプと、織ネームの2種類用意いたしました。

「JAPAN FUTON」ラベルは、日本ふとん協会の会員企業が、国内工場で製造（加工・縫製・検品）した、安心・安全な「日本製ふとん」であることを証明する認証ラベルです。

協会では、今後、国内外の展示会の出展や、プロモーション活動を行いながら、今後もJFAブランドとJAPAN FUTONラベルの普及に努めていきます。是非、ご活用の際、よろしくお願いいたします。



新型コロナウイルス感染症により中止になっておりました「JFMA 研修会」を2022年より再開しました。今年度も一般財団法人日本ふとん協会と日本ふとん製造協同組合の共催で、第19回研修会を7月13日、14日の2日間、愛媛県にて開催致しました。

新しい体制になった、日本ふとん協会では「ブランディング委員会」を立ち上げ協会のロゴマークを刷新し、ブランドの強化に取り組むなど精力的に活動を行っています。委員会の中で、同じ繊維業界で成功している「今治タオル」ブランドについて学ぶことで、協会の新ブランド展開に役立つのではないかという意見がありました。そこで「今治タオル」のプロジェクトを立ち上げた、今治タオル工業組合様に研修の依頼をしたところ、快くお引き受け頂き、今回の研修会を愛媛県で行う運びとなりました。

今回の研修会は、体制を新しくした協会の会員企業から13社16名の参加を頂きました。

まずは、今治タオル工業組合様が入居されている、今治市内のテクスポート今治を訪問いたしました。こちらの施設は第三セクターが運営しており、その株主の中に今治タオル工業組合様も参加されております。イベントができるホールをはじめ「今治タオル本店」「今治タオルLAB」などが入居する複合施設です。

こちらの、イベントホールで今治タオル工業組合様の正岡理事長、木村専務理事より、「今治タオル」ブランドの立ち上げの経緯や今後の展開について説明頂きました。

バブル前の今治の産地は、問屋へのOEM供給が中心で、原価率が高く利益が薄い問屋主導型の取引が多かったようです。生産数量は90年代前半がピークで、このころはナショナルブランドのタオルが全盛期の頃でした。その後、価格競争で産地が中国にシフトし、生産数量が大幅に減少するなど、次第に産地で危機感を募らせていったようです。

そこで現状を打破するために、2006年にプロジェクトを立ち上げ、積極的なブランディングやプロモートを行い、今や誰もが知っている「今治タオル」ブランドを作り上げました。ブランド化を進めることにより、生産数量の維持、安価な輸入品との差別化、人材の確保の改善、価格交渉力の向上、そして参加した企業だけでなく産地全体が活性化するなど、様々な成果があったようです。

第19回 JFA & JFMA 研修会 参加者名簿

会社名	氏名	役職
米山元章	(株)エビス	代表取締役社長
米山幸平	(株)エビス	取締役
小暮淳司	(株)エビス	取締役
石田裕紀子	木村綿業(株)	専務取締役
河村佑太	コドモわた(株)	代表取締役社長
西崎匠	(株)ニシザキ	代表取締役社長
佐藤雅己	福島寝装(株)	代表取締役社長
大賀茂功	(株)ダルマックス	代表取締役社長
河合重宏	昭和西川(株)	執行役員MD本部長
星野一成	昭和西川羽毛製造(株)	取締役副社長
本多英二	本多綿業(株)	代表取締役社長
荻原幸宏	コーワ(株)	代表取締役社長
石川幸弘	(株)藤田屋	代表取締役社長
石川泰之	(株)藤田屋	取締役
西岡一則	大恵ウール(株)	代表取締役社長
石川竜太	(株)フレーム	代表取締役社長
松井康平	四国繊維販売(株)	代表取締役社長
只野悟	日本ふとん製造協同組合	事務局
金井一浩	一般財団法人日本ふとん協会	事務局



我々の業界は産地として纏まることは難しいですが、ふとんを製造する企業として危機感を共有し、日本で生産するふとんの価値を向上させるために「今治タオル」ブランドが成功し、取り組んでいく姿を参考にさせて頂くことは、我々の業界にとっても大変参考になると思います。

正岡理事長、木村専務理事には、かなり詳細な部分までお話を頂き、あらためて感謝申し上げる次第です。

続いて、同じ施設内にある「今治タオル本店」「今治タオルLAB」を見学致しました。「今治タオル本店」はメーカー別に様々なタオルが展示販売されており、手に取って確かめることができます。参加された皆さんもお土産として、買い求めておりました。

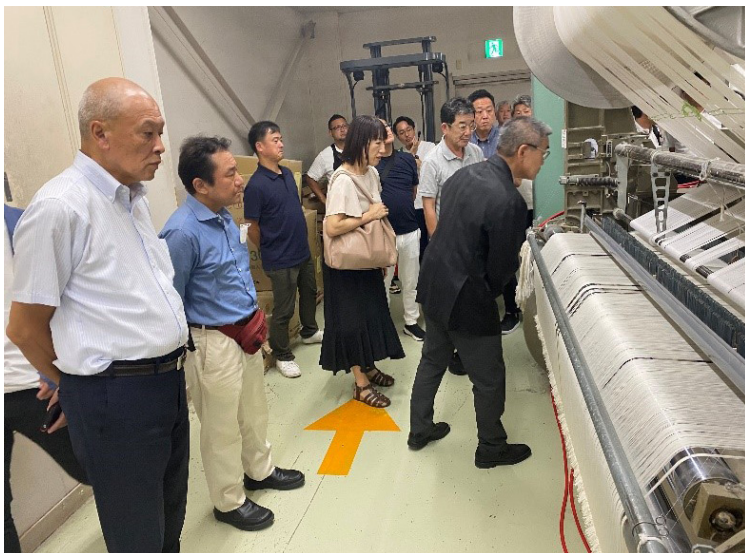
「今治タオルLAB」は今治タオルの品質基準の一つになっている、優れた吸水性を体験できる実験（5秒以内にタオル片が水没する）が出来ます。また、こちらにはタオル織機やミシンも設置されており、

タオルが出来る工程も見学できます。

短い時間でしたが、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

続いて正岡理事長が経営されている、正岡タオル様の長沢工場を見学致しました。テクスポーツ今治から東へ20分ほどに位置し、2万4千㎡の敷地を有する立派な工場です。

正岡タオルは大正10年の創業で、間もなく創業100年を迎える老舗のタオルメーカーです。工場に入るとタオル織機のにぎやかな音で、工場の活気が感じら



れました。設備に関しては正岡理事長のこだわりがあるとのことで、最新のジャガード織機を導入し、商品の差別化と品質の向上を図られているようです。ものづくりに対する思いやこだわりが、日本の繊維メーカーとして生き残る大事なポイントであると思いました。長い歴史に培われた技術と、最高の素材を生かし、誰もが認める心地よい最高のタオルを生み出しています。同じ繊維業界でも、他業種とはこのような機会がないと接点がありません。今回は今治タオルという商品のソフト面とハード面を知ることができ、非常に勉強になったのではないのでしょうか。

初日の研修会終了後、バスで宿泊場所の道後温泉へ移動しました。組合でお付き合いのある、松山市の円クリエーションの谷口社長様に宿泊場所をご紹介頂きました。

宿泊場所はスタイリッシュなホテル、懇親会は道後温泉らしい和風な旅館で行いました。地元自慢の伊予牛や鯛めしに舌鼓を打ち、地酒を酌み交わしながら、参加されたメンバーとの懇親がさらに深まったと思います。



2日目は、希望者を募り松山市内にある世界的な農業機器メーカーである、井関農機(株)の製造工場を見学致しました。井関農機(株)の本社は松山市で、製造工場は子会社の(株)井関松山製造所になります。グループ内の主力工場で、広大な敷地を有し、従業員は900名在籍しているそうです。工場見学は、工場の責任者である堀尾社長様にご案内頂きました。

こちらの工場では、大型トラクタや小型の乗用管理機を生産しております。エンジンやトランスミッションの鋳造から、ギヤ・シャフトの機械加工、外装部品のプレス加工まで、細かい部品を除くとほぼすべての部品を製造されています。

エンジンの鋳造は、真っ赤に溶けた鉄を鋳型に流し込む、普段見ることのできないダイナミックな工程でした。これらの数多くの部品を車種別に揃え、組み立てラインでアッセンブリし完成させます。同じ車種を連続して組み立てるのではなく、異なる車種を1台ごとに組み立てておりました。堀尾社長様によるとこの方式の方が、生産性が上がるということです。組み立ては最新のロボット設備が導入され、素早い動きに驚かされました。

ギャラリーにはこの工場で作られた大型トラクタが展示されており、実際に乗ることも出来ます。大型トラクタは高級自動車並みの装備が施されており、操作性や快適性にもこだわりを感じました。

二日間に渡り生産工場を見学致しましたが、業界は全く異なりますが、どちらの工場にも高品質、高機能の商品を作るための努力を惜しまないという点が共通しておりました。日本の製造業の良さの一つに「お客様に満足頂ける商品を作る」という基本理念があると思います。単にコストや利益を追求するだけでは、メーカーとして継続することは出来ないのではないのでしょうか。我々の業界も日本の製造業の一員として、このような姿勢を見習っていきたいと思います。

最後に、このような研修会が業界の活性化や企業間の情報交換、そして企業経営のヒントになり、参加された皆様が何か得ることがあれば幸いです。来年は20回目の研修会になります。皆様のご要望に応えるような内容を企画していきたいと思います。



JFAアンケート 2023

日本ふとん協会では、2023年9月に会員の皆様にアンケートを実施いたしました。

会員の皆様が抱えている問題点や要望を今後の協会の活動に役立てていくためです。皆様の貴重なご意見を生かし、微力ながら業界の発展のために活動していきます。

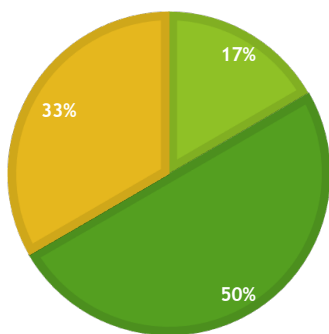
現在の状況

▶ 左図 2023年9月調査 18社(56%)

▶ 右図 2021年10月調査 35社(69%)

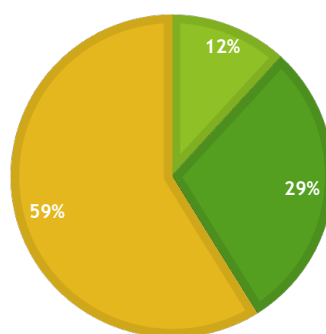
1. 現在の状況

■①昨年より良い ■②昨年と変わらない ■③昨年より悪い



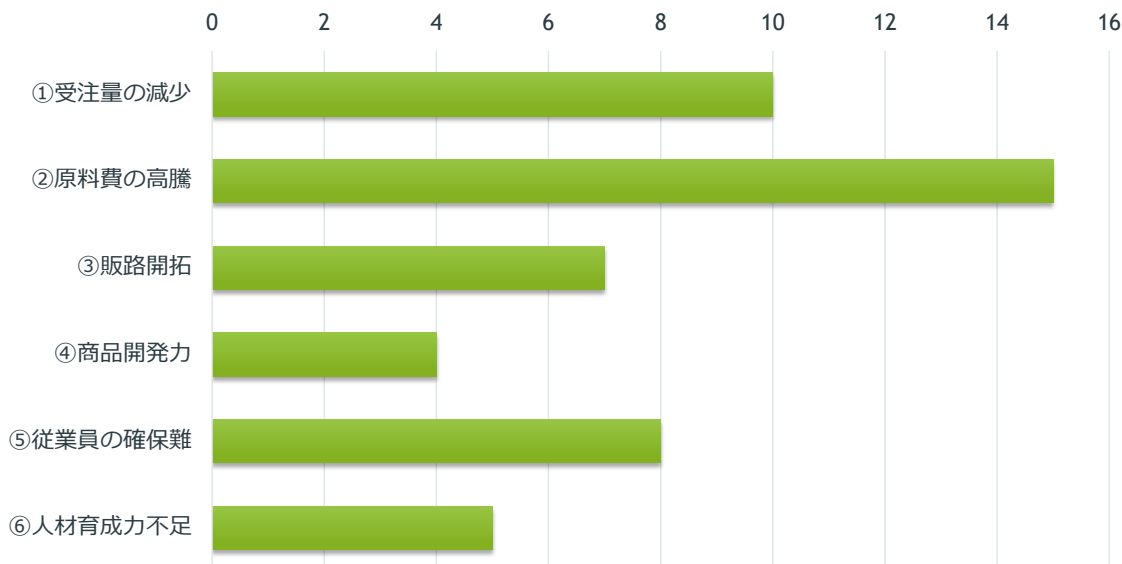
1. 現在の状況

■①昨年より良い ■②昨年と変わらない ■③昨年より悪い



経営上の問題

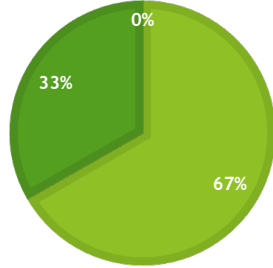
2. 現在抱えている経営上の問題



ふとんのリサイクルについて

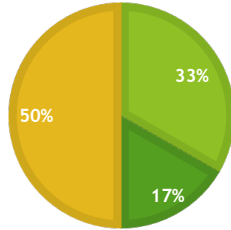
3. ふとんのリサイクルに取り組んでいますか

■①取り組んでいる ■②取り組んでない ■③わからない



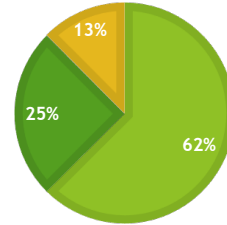
4. ふとんを回収するビジネスモデルに参加しますか

■①参加する ■②参加しない ■③わからない



5. ふとん回収キットを利用した場合、年間何枚ぐらいのふとんを回収できますか

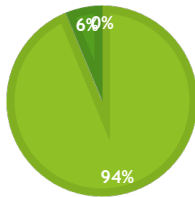
■①100枚以下 ■②1,000枚以下 ■③1,000以上



生産設備の現状と問題点

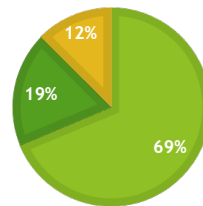
6. 現在の設備で問題がありますか

■①ある ■②ない ■③わからない

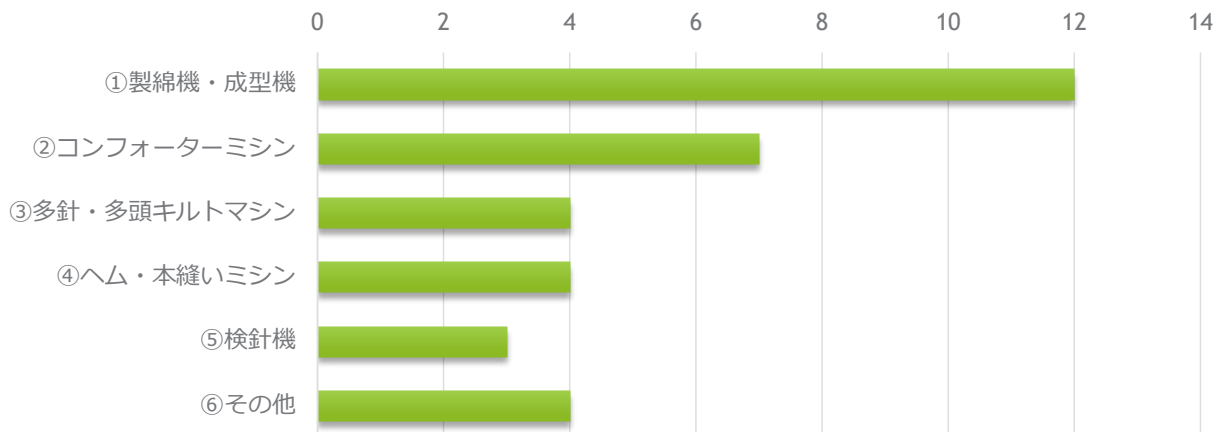


8. 修理やメンテナンスを行う業者はいますか

■①ある ■②ない ■③今はあるが今後不安

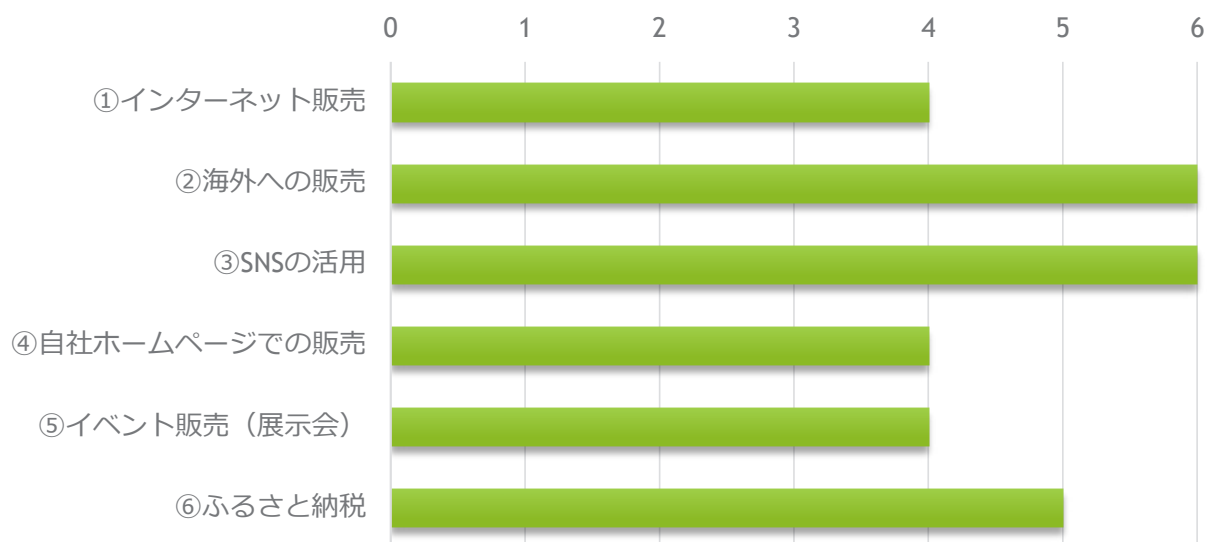


7. 問題がある設備は



販売方法についての要望

9. 取り組みたい販売方法



アンケートの調査結果のまとめ

コロナ以降も厳しい状況が続いている

原材料の高騰が一番の問題点

リサイクルの取り組み組んでいる企業は約6割強

生産設備について多くの企業が問題を抱えている

海外への販路開拓や直販への要望が高い

JFMAの現状と技能実習制度 の今後について

日本ふとん製造協同組合は、2023年4月に外国人技能実習事業以外の事業を日本ふとん協会に譲渡しました。現在は主に外国人技能実習事業を中心に活動を行っております。組合は技能実習制度において重要な監理団体としての役割を果たしています。

実際の業務として、海外の送出し機関の選定、技能実習生の海外からの選抜、技能実習計画の作成指導、入国後の講習、実習生からの相談や保護、実習先の監査や指導、そして在留資格変更や更新の手続きなど多岐にわたります。

2023年8月に事務所を東京都中央区新富に移転しました。この移転については、監理団体としての要件の厳格化に備えたものです。

技能実習制度に関しては、2017年に法律が制定され、すでに5年余り経過し見直しの必要性が生じています。政府の有識者会議は2023年11月に最終報告書を答申し、来年に向けて審議が予定されています。制度の見直しのポイントとしては、技能実習制度を廃止し、人材確保と人材育成を目的とする新たな制度を発足させることにあります。新たな制度から特定技能制度への円滑な移行をさせることが明確化されました。人権保護の観点から、一定の要件化で本人意思の転籍をみとめ、監理団体の許可要件が厳格化される模様です。さらに、日本語能力向上のための環境整備が強化され、外国人との共生社会の実現を目指すと言われています。

新制度の格子の一つとして、受入れ対象分野は特定技能制度における「特定産業分野」に限定されます。現在、寝具製作においては「特定産業分野」に設定されていないため、新制度に移行した際には、人材を受入れできない可能性があります。しかしながら、留意事項として現行制度の利用者へ、不当な不利益や悪影響を被るものが生じないように、また、とりわけ人手不足が深刻な地方や零細企業において人材確保が図られるように配慮することとされています。

このように、新制度が最終的にどのような法制度になるか、流動的な部分もあり、組合としてはこれに備え動向を注視したいと思います。また、現在受入れしている組合員の皆様が困惑することが無いように、逐一情報を入手し新制度にしっかり対応していく所存です。

2023年度 技能実習生受入れ推移と在留状況

2023年12月22日現在

1. 研修生・技能実習生受入れ推移

2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
8名	36名	38名	47名	42名	43名	65名	59名	51名	45名	40名	46名
2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 5月	2023年 8月	2023年 9月	2023年 11月
37名	21名	28名	12名	24名	9名	1名	14名	4名	1名	7名	1名

(2003～2023年の20年間の研修生・技能実習生受入れ実績は679名です。)

2. 技能実習生の在留状況

(敬称略)

No.	県別	会社名	技能実習 1号	技能実習 2号1年	技能実習 2号2年	技能実習 3号1年	技能実習 3号2年	計
1	茨城	(株)根本	2名			2名		4名
2	茨城	(株)会吉商店	1名		2名			3名
3	群馬	コーワ(株)	2名	2名				4名
4	群馬	(株)エビス	2名				3名	5名
5	群馬	丸倉寝装(株)	3名					3名
6	埼玉	松敬産業(株)		3名				3名
7	埼玉	昭和西川羽毛製造(株)	3名					3名
8	新潟	木村綿業(株)		2名				2名
9	京都	大恵ウール(株)		1名		2名		3名
10	香川	(株)藤田屋			1名			1名
11	宮崎	(株)菱友			2名	1名		3名
計			13名	8名	5名	5名	3名	34名

3. 技能実習生の出身国

No.	出身国	技能実習 1号	技能実習 2号1年	技能実習 2号2年	技能実習 3号1年	技能実習 3号2年	計
1	カンボジア	8名	4名	5名	4名	3名	24名
2	ミャンマー	5名	4名				9名
3	中国				1名		1名
計		13名	8名	5名	5名	3名	34名